



進むICT教育

1人1台端末の活用

四万十町では、小中学校の児童生徒全員にタブレット端末（※上写真の情報機器、以下「端末」）を貸与しています。端末には学習用ソフトウェアを導入し、学校の授業や家庭学習で活用しています。

新たな学びの実現を目指して

令和4年度からは教員と児童生徒との授業中のやり取りを支援するソフトウェアを導入し、授業中に教員が課題を出すと、解答をすぐに受け付け、確認できるようになりました。また、このソフトと電子黒板を組み合わせると、児童生徒は、着席したまま端末への書き込みを大画面に映し出せます。

授業以外では、家庭学習時の課題提出に活用しているほか、臨時休業や自宅療養中にビデオ会議で健康観察をしたり、自宅へ授業の同時中継をしたりすることがあります。このように新たな学びの実現を目指し、各学校で端末の活用について校内研修を行っています。



リスクも忘れずに

家庭への端末の持ち帰りが始まり、情報機器に触れる機会が増えましたが、活用中にさまざまな危険に出会うリスクは依然としてあります。今後も情報モラル教育と併せ、端末の適切な活用方法を検討していきます。



今月の



大正中津川の人々のありようを通して

「集落」とは何かに迫る①

四万十町と高知大学地域協働学部は、令和元年度から、協力して様々な取り組みを行っています。その一環として、去る2月18・19日の二日間にわたって、オーテピア高知図書館で「大正中津川今昔写真展」が開催されました。大正中津川（以下中津川）の住民として、地域の人・生活を撮り続け、昭和51年に「ぢかたび写真展」という企画名で、地元中津川の田んぼでの青空写真展を開催した田辺哲郎さんのお撮りになった実際の写真と、当時の「ぢかたび写真展」に集まる人々の様子などの写真から「中津川とは何か」に迫る、小規模ながら実に意義深い写真展でした。この企画を主催した高知大学地域協働学部 地域生活特別講義実習生の4人を2回にわたってご紹介します。

まずは2年生の樋口萌香さん。兵庫県洲本市のご出身です。洲本市といえ



▲昭和51年の「ぢかたび写真展」は、当時の新聞でも大きく取り上げられた。

中津川を何度も訪れ、学習する中で「ここが本当の（集落）」というものを「見た」と言います。それは山に囲まれた地形ゆえの隔絶されたビジュアルと、そんな村のありよう通りの人々の様子から感じたのだそうです。

ば淡路島の中央部に位置する、決して都会とは言えない地方の町です。樋口さんは島内にある兵庫県立淡路高校を卒業しました。この高校は卒業と同時に調理師免許を取得できるコースがあるのだそうです。「高校2年生くらいだったと思いますが、地元愛に目覚めてしまったんです」という樋口さん。周りの人たちが「洲本には何にもない」と自嘲気味に話すたびに「良いところやなあ」と思ってしまうのが幸せなんじゃないかなあ」と思っていました。そして「洲本の昔ながらのものを残していきたい」と考えるようになり、高校3年生から、とある地域おこしサークルに参加していました。

そんな樋口さんは、高校卒業後の進路を模索する中で、当大学の地域協働学部の存在を知り進学を決めました。地域生活特別講義を選択したのは「とにかく面白そう。自由な感じも魅力的でした」とのこと。

卒業後は洲本に帰って、中津川で学んだことを活かしていこうと思っています。高校時代に学んだ調理の知識と技術も合わせて、郷土料理の復活と伝承にも取り組んでいこうとも考えています。「地元愛研究家」の樋口さんはふるさと洲本にどんなお土産を持ち帰るのか。とても楽しみにワクワクします。さて、田村敢さんも2年生。小学1年生から岐阜県多治見市で育ちました。実は田村さんは、既にこの実習期間を終えていて「自主参加」なのだとか。「あまりにも興味深くて、中津川から離れられないんです」と言って笑う田村さんは、田辺哲郎さんが撮られた写真のデータ化なども引き受けています。「ぢかたび写真展」の魅力について「地区の人たちが、本当に地下足袋のまま観に来ているんです。みんな仕事着のままです。背伸びをせずに生きている人々の、瞬間瞬間の切り取りである写真の数々がキラキラしていて、そして、観に来る人も背伸びをしていなくてキラキラしているんです。」と語る田村さんもまたキラキラしています。

田村さんとお話していると、中津川の魅力が次から次へと出てきます。と同時に、全国の過疎の集落が抱える現実も直視していて、その問題にどのように向き合っていくかについて考えることも忘れません。中津川の集落が見せる行動力や、楽しもうとする力。ほどうい脱力感とシンプルさ。「古くからの慣習や、生き方に沿いながらも、もしかしたらすぐく新しいことをやっているんじゃないかと思うことがあります。」そして「他の過疎集落にもこういったところが増えていくと良いのかもしれない」と田村さん。



高知大学地域協働学部 地域生活特別講義実習生
ひぐち もえか たむら かん
樋口 萌香さん 田村 敢さん